

地球を破滅におとしいれかねない電磁スカラー・パルス砲の存在について

—スティーブン・グリアの講演から— その1

グッチ

序

1947年に米国ニューメキシコ州ロズウェルで起こった UFO 墜落事件は UFO 関連の出来事の中でも最も有名なケースだろう。

しかし地球を訪問するほどテクノロジーが進んだ ET 文明の乗り物が簡単に故障し墜落などするだろうかという疑問が湧いても不思議はない。

その墜落が、地上からの攻撃によって撃墜された結果だと言ったら、さらにはありえない気がしてくるだろう。

ET 宇宙船が重力を無視するかのように急角度で方向転換するなどの目撃例が信頼できるとすると、その宇宙船は地球の科学をはるかに凌駕した飛行法をしていることになる。

そんな ET 宇宙船を撃墜するような武器が技術的に著しく劣るはずの地球にあるわけがないと思うのがふつうである。

しかし、CSETI（地球外知性研究センター、1990年～）の創設者であり、

UFO・ET 情報開示運動 (Disclosure) を行い、歴代の大統領や議員たちに UFO 情報をブリーフィングしている Dr.スティーブン・グリア (Dr. Steven Greer 1955~) が開示する機密情報によれば、そのような武器は実際に存在しているし証拠もある。

また、そのような武器を開発し、ET 宇宙船撃墜を今なお続けている違法な軍産複合体組織が存在していることを組織内部から多くの告発者がグリアに告げている。

その組織で特別危険な任務をさせられていた人たちが逃げ出してグリアの活動に参加しているケースもある。

グリア自身はその途方もない威力をもつ電磁スカラーパルス砲を 2023 年 9 月中旬にヘリで観察し、自分のケータイで写真に収めているし、動画も撮っている。

なおグリアはこの基地を撮影した数週間後、仕組まれた事故に遭い重傷を負った。

グリアにはスカラー砲のビームを身近に浴びた経験もある。

この電磁スカラーパルス砲のビームが ET 宇宙船の反重力フィールドを乱して

墜落させるとか（コース中佐『ロズウェルの翌日』）、時空を切り裂いて光年単位の距離を光の千倍の速さで越えて ET の母星をも危険に晒すため、さすがに高次の精神進化を遂げている平和主義の E T 側も介入せざるを得ない時期が迫っているという話（グリア）があることを考えれば、この異次元の武器の存在は人類にとってまさに疫病神だろう。

以下、これらの出来事の詳細をグリアのプレゼン記録などから再現し、スカラールパルス砲のリアルを知ってもらおうと思う。

なお、スカラールパルスの物理的原理は非常に難しいため、専門的知識のある人が読み解けるように、その原理を説明した英文資料へのリンクを巻末に置く予定である。

（2024年9月8日のロンドン講演から）

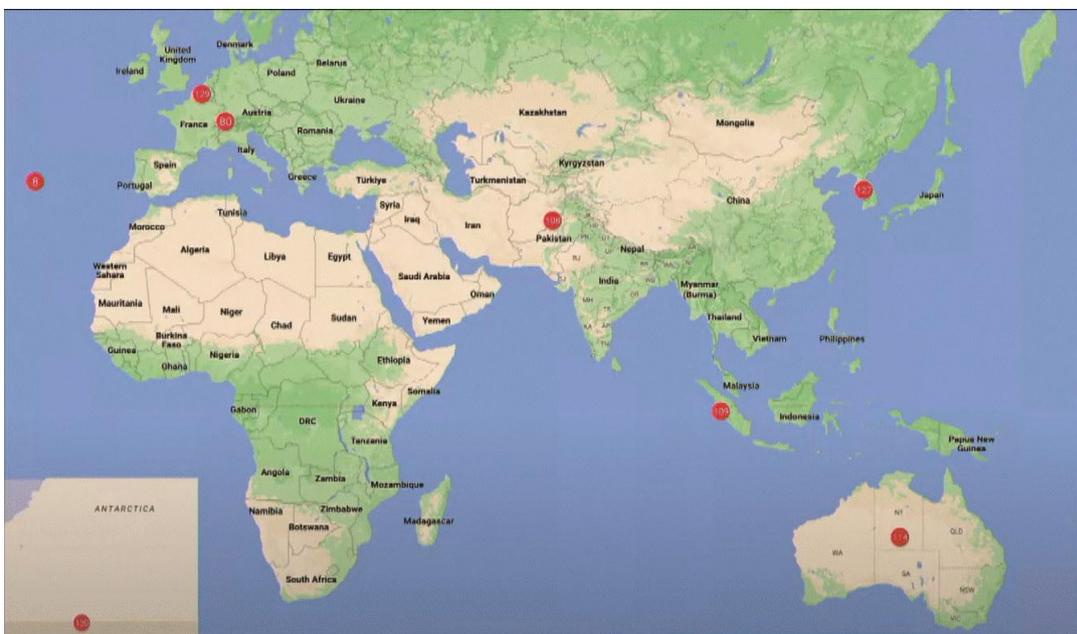
1. **グリアは2023年9月に違法な軍産複合組織の1つの施設をヘリで上空から観察し、スカラール砲を写真に撮ったあと、事故に遭った。**

762人の内部告発者から報告を受けて米国内や世界に広がる違法組織の拠点地図を作製した。

図1 (米国にある拠点146箇所)



図2 (世界中に広がる拠点。ソウルやインドネシアや南極にもある)



(注：これらの像は CSETI のアーカイブにある)

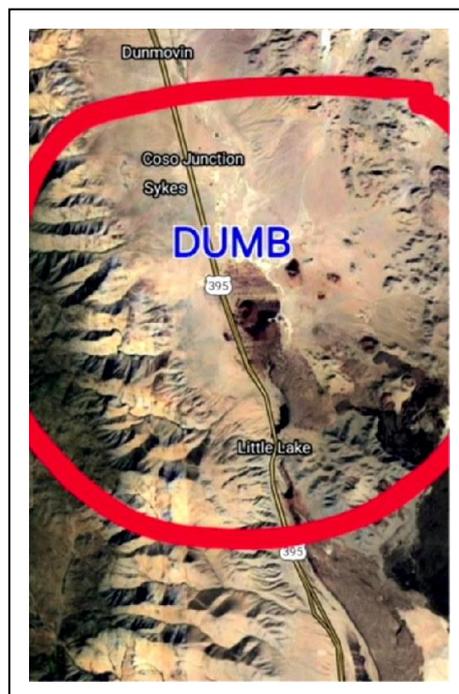
私が告発者と面会し情報交換のブリーフィングを行った数はこれよりも多い。私のブリーフィングを受けた人たちのうち、自身の個人情報の提供を望まない人たちもいる。したがって人数ではおそらく1000人を越えると思う。私に情報をくれた人たちは実際に違法組織で活動していた人、組織のことを見聞きた人、組織の基地や施設にいた人、施設内で起こった出来事の現場に居合わせた人たちなどだった。たまたま目撃した人や、組織に入り込んでいた人などだ。

つまり彼らの違法組織との関わりは実にさまざまだった。

しかし彼らからあがる情報はすべて実際の体験に基づいているものだった。

ここにちょっとした実例がある。

図3



みなさんは地下深くにある軍事基地のことを聞いたことがあるかと思う。

ここに入口がある。

今みなさんが目にしているのは蟻塚(Ant Hill)と呼ばれている地下基地だ。

カリフォルニア州の東、ネバタ州との境あたりの荒野。そこにこの基地がある。(2024年3月のグリアのウェビナールではこの基地の場所を Lockheed Range 3 と表示していた。場所に関しては2025年1月中旬にポッドキャストに公開されたエピソード2の中で、モハーヴェ砂漠 Mojave Desert と明かしている)。

なぜ蟻塚と呼ばれているか？ 蟻塚には蟻たちが入り、潜っていく。

塚全体が蟻の城であり、活動の場だ。

この地下基地もそのようなもの。

地下にあるので、そこに行っても何もないように見える。入口にも表示らしきものがない。

ホログラムによって入口が隠されることもある。

ただの山地のように見えるが、実際は違う。

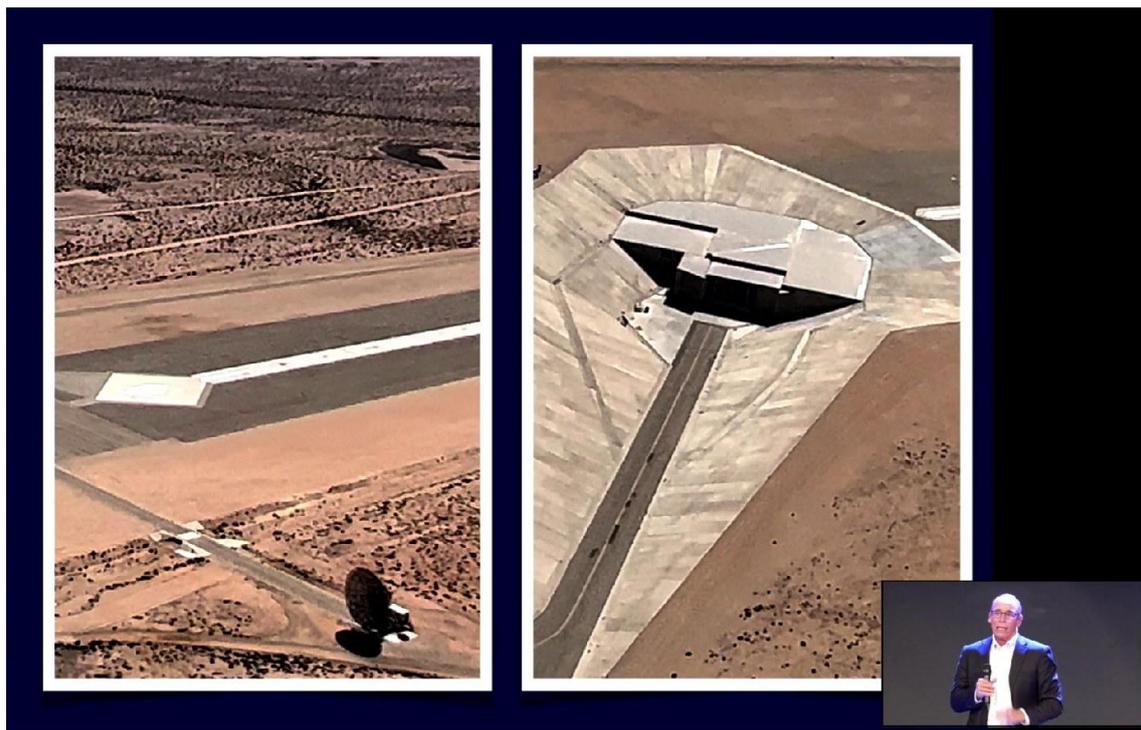
入口から地下に進めば、巨大な施設が広がっているのだ。

それでこの地下基地は蟻塚と呼ばれている。

我々はこの場所の GPS 座標を特定し、組織の攻撃部隊がいる場所のリストに入れて
入れている。

これらの施設を上空から調査したために私は危うく命を落とすところだった。

図 4



この写真はほぼ正確に 1 年前に撮ったものだ（注：2023 年 9 月中旬）。

そこに非合法組織の連中がいる。この基地のトップ…たぶんこの基地を稼働し

ている最上級レベルの1人が私を覆面ヘリに乗せてくれた。

同乗者は違法アクセスプロジェクトの攻撃部隊長だった。

(注：違法組織は層構造をもっていて、中枢から遠い部署にいる者は組織の危険性をグリアからの情報で初めて知る場合もある。そういう人たちが、組織のかなりの高官を含め、組織にしながらグリアに協力したりしている。この施設のトップに近い人物がスカラー砲を稼働する隊長とともにグリアをヘリに乗せて施設を見学させたわけだ。)

そして我々は西へ荒野へと飛んだ。

いくつかある主要な施設を観察した。

この施設の写真は私のケータイで撮ったものだ。ここに（演壇）置いてあるケータイで撮った。

興味深いことに上院情報委員会(The Senate Intelligence and Armed Services Committee)や米国の高官たちはこの施設のことをまるで知らなかった。

米軍トップの人たちですら、この違法な闇のプロジェクトについては蚊帳の外にいた。

私は1990年代から、このような施設の存在は知っていたが、その上空を飛

んだのはもちろん初めてだった。

この施設上空は禁止空域であり、非常に機密性が高いからだ。

さて、写真を見ると、溝や滑走路があるように見えるだろう。

この施設には人工 UFO が格納されている。

1954, 55年くらいから製造されている人工 UFO だ。

人工 UFO がここから上昇しホバリングする。反重力装置を使って無音で飛ぶ。

写真左にダイヤモンドの形が見える。ダイヤモンドの形がある滑走路のように見える。

でもこれは滑走路ではない。人工 UFO は滑走して離陸する必要がないからだ。

空気力学で飛ぶのではなく、まっすぐ上昇する。

人工 UFO は写真に写っているのとは別のダイヤモンド上にある。

私はこれらを全部動画と写真で撮ってある。

でも今はそれを全部見せる時間がない。

この場所で彼らは人工 UFO をさまざまな高度に浮かばせて、電磁パルス兵器で撃っている。

ET 宇宙船を撃ち落とすのに出力が十分かどうか確認するためだ。

この施設をヘリで観察してから数週間後、何者かが私のマウンテンバイクのサドルに細工をした。

私は転落し、左足が開放骨折して、ぶら下がった。左肩の筋肉が全て剥がれ、右腹部も裂けた。

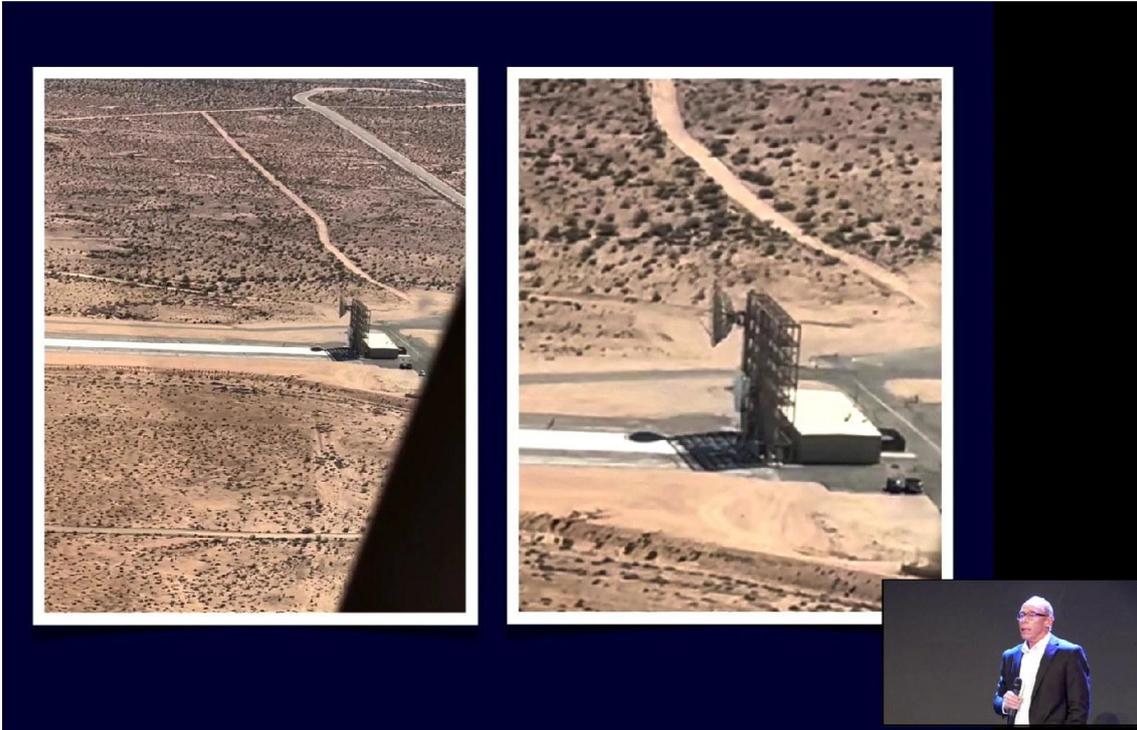
そして3カ月間に4回の手術を受けて、ようやくこのように元気になった。

(注：グリアは施設を見学したために死にかかったと言っている。つまりマウンテンバイクに細工したのは違法組織だと考えている。

これまでこの違法組織は多くの人物を暗殺している。グリアも暗殺を恐れ、対策として自分が死んだ場合、組織の全貌を明らかにする証拠をスタッフが発表すると公言しているが、このように魔の手は容赦なく伸びてくる。

グリアをヘリに乗せてくれた施設のトップ級の人物とスカラー砲の攻撃隊長たちはその後どうなったのだろうか。)

次の映像。



これは大いに注目すべきもの。攻撃用の兵器だ。

これは周囲をスキャンするレーダーではない。殺人光線のような非常に強力なパワーをもった指向性のエネルギー兵器システムだ。

この装置はこれくらい（両手で30cmくらいの中を示す）に小さくもできて、箱に入れて持ち運びができる。

みなさんが知っているかどうか分からないが、国際非核条約はこのような電磁パルス兵器を禁じている。

聞いたことがないかもしれないが、これはスカラーと呼ばれている。

原子爆弾や核爆弾を爆発させると、電磁パルスが発生する。

それは極大限のパワーを発する。これはそもそもが大量破壊兵器であり、禁止されていたものだ。

みなさんが見ている施設はこのスカラー兵器が常時使われている活動拠点である。人工 UFO をテストしているだけではないのだ。

ちなみにみなさんが目撃して ET 宇宙船だと思っている物体の約 80% は人工 UFO である。

スカラー兵器は実際に ET 宇宙船を狙うことにも使われている。

私がヘリで上空をホバリングしたこの基地もそうであり、年に ET 宇宙船を 1, 2 機撃墜し、ET たちを殺している。

近くにあるもう一つの基地にもヘリで飛んだが、そこも年に 1, 2 機撃墜している。

こんなことが世界中にあるさまざまな秘密基地で行われている。我々のアーカイブには 122 機の墜落・回収された ET 宇宙船が記録されている。

推定するに、この数字は実際に起きた撃墜事例のほんの 5 分の 1 か 10 分の 1、あるいはそれよりさらに少ない割合だろう。

諜報活動の記録や内部告発者から得られた情報からそう言える。

この基地は40年間、フルに稼働していたので、その間80機を撃墜した計算になる。

近くのもうひとつの基地も80機だ。

これだけで我々のアーカイブに記録した122機を越える。

この地域の2つの基地の撃墜事例だけで越えてしまう。

(グリアはある講演で、実際に撃墜されたET宇宙船は1000機にのぼるだろうと言っている。ETたちの死体がたくさん並んでいるのを目撃した証言もアーカイブにある。戦争などの野蛮さを知らないETたちも犠牲になったはずだとグリアは言う。地球人は宇宙から見た場合、自分たちが如何に野蛮で危険な存在であるかを知るべきだろう。)

さて、この基地の司令をしている人物、私を覆面軍事ヘリで案内した男はET宇宙船が実際に撃墜された現場に居合せたことがあると語った。

彼はET宇宙船が搬送され、ETたちの死体が運ばれた現場にいた。

彼はそれを見て気が動転したという。

彼は恐ろしい状況におかれているが、善良な男だった。この組織の他の多くの者たち同様に。

これはおよそ1年前のことだ（注：この講演は2024年9月8日）。

事故は（2023年）10月15日に起こった。

私がこの基地の上空を飛んだのは去年（2023年）の9月半ばということになる。

（グリアは2024年3月8日の講演では以下のように言っている）：

私はET宇宙船を撃墜した施設に行ったことがある。その施設の地上100フィートの高さに撃墜システムがある。

その違法な電磁パルス（EMP）兵器のビデオは撮ってある。

この兵器は核不拡散条約に違反している。

そこで私はビデオを上院情報委員会の委員たちに（2023年）10月に送った。

そのすぐあとに私は「事故」に遭ったのだ。

(注：2023年7月26日には米下院でUFO公聴会が開かれて、米空軍の情報将校だったデービッド・グラシ氏が政府はUFOの残骸を回収する秘密プログラムを実施しているとし、「私は公務の過程で数十年にわたる墜落UAPの回収と解析プログラムについて知った」と証言している。

その3カ月後に米上院の情報委員会の議員たちが、この電磁スカラーパルス砲の録画をグリアから受け取っているという事実は大きい。)

なお、グリアはロンドン講演が終わる約30分前には以下の発言をしている：

数年前、私はエグリン(Eglin)空軍基地(注：フロリダ州 panhandle の西)近くである男と会った。

その基地には蹄鉄の形によく似た電磁スカラーパルス発生装置があり、彼はその装置の稼働にたずさわっていた。

ET宇宙船が発見されると、この装置で撃墜を試みることになる。

彼は宇宙船は岩のようにまっすぐメキシコ湾に落下するだろうと言った。

このようにしてET宇宙船は回収されるのだ。

(注：蹄鉄型のスカラーパルス発生装置はU字の形のはずなので、2023年9月にヘリから撮ったお椀型のスカラーパルス砲と形が違う。発生装置にはい

くつか種類がありそうだ。)

以下、2024年3月13日のグリアの講演セッション5を再現する。

このセッションではスカラーパルス砲と関連する驚異の事実が次々と明かされた。

重要な情報を伝えてくれた匿名の証言者たち

証言者のリストに載っていない匿名の人物たちの証言について話をしたい。

私が集めた多くの情報のうち、おそらく3分の1は匿名の証言である。その証言はEメールも文書も使っていない（注：傍受や情報漏れ対策）。

証言者たちは直接私の家にやってきましたり、講演のさい控室に来たり、集会のとき私を脇へ呼び寄せて話したりする。

さまざまなケースがある。名前を公表する証言者は767人いる。

しかしここ30年間でおそらく300人かそれ以上の匿名希望の証言者が非常に重要な情報をたずさえて私のもとにやってきました。

匿名だが、信用できる人たちだ。

もちろん、名前を言わないのはデメリットになる。

しかしこれから紹介する人物は特殊なケースであり、そのうち証言のために召喚され、宣誓のうえ真実を語ることになるかもしれない。

ともあれ私は今ここで彼のエピソードを紹介することにする。

私がこれからみなさんに語ることは本当のことばかりだ。

いくつか証言例をあげてみよう。

証言内容について討論する必要もあるだろうが、その時間はない。

証言のすべてについて討論していたら、この講演会の残り時間を全部使ってしまっただろう。

そこで1つだけ証言例をあげることにする。

数年前…日付を覚えているスタッフもいるだろうが、私はアリゾナ州のフェニックスにあるアリゾナ州立大学のテンプ・キャンパスで講演をした。

そのときに起こったことを話したい。これはヘレラ氏（注：John A. Herrera。

2013年にホワイトハウスがオバマ大統領のスローガン「Change!」にちなんで選出した Champions of Change の1人）と関わりがある。

これはヘレラ氏とインドネシアの大惨事に関係している。

これから登場する人物は50代後半だ。彼は数人のSPを引き連れてやってきた。

彼はGPS装置やコンピュータが使われていない古い車を手に入れてアラスカからフェニックスまでやってきた。

このようにして彼は私に知らせておいた方がいいと思ったことをじかに伝えることができた。

彼は自分がやったこと、関わったことに恐れをいだいていた。

彼はチャーター船に乗っていた。

その船にはレイセオン社（注：Raytheon Company:米国の軍需製品メーカー）の装置が搭載してあった。

船をチャーターしたのは米国家安全保障局（NSA: National Security Agency）である。

彼らはその船に乗ってアラスカの海岸からインドネシアまでの行路をたどった。

私たちはこの事実を船に搭載している装置について別個に知っていた空軍中佐から確認している。

この中佐は名前を公表した証言者だったが、この件についてはまだ話そうとしていない。

したがって彼が誰なのかは言わないことにするが、ご了承願いたい。

私にはこの配慮が必要だ。この善良な人物とのつながりを失いたくないからだ。

情報が凄い内容であればあるほど、それを伝えるのはその分危険になる。

彼にはそれが分かっているのだ。

しかしこれは特別なケースであり、その内容を知ることは、国家安全保障にたずさわる人々にとって重要である。

国家や世界の安全保障を見据える人々にとって重要なのだ。

なぜならこのインドネシアに向かったチャーター船には電磁装置が搭載されていたからだ。

その装置は非常に強力な指向性エネルギーであるスカラー・パルスを発生する

ものだった。

そのスカラーパルスプレートを重なりあい沈み込んでいる海溝に向けて放射し地震を誘発させた。

このチャーター船は実験をするために船出し、インドネシア沿岸の沖合にある海溝の上まで行って、このスカラーパルスを放射したのだった。

厳密にどのくらいの長さ放射したのかは分からない。一発だったのか、数発だったのかなど、詳細は分からない。

とにかくこのスカラーパルスの放射が巨大地震の引き金を引き、大津波が起って25万人の人が死んだ。

(注：2004年12月26日現地時間午前8時ごろに発生したM9.1のスマトラ島沖地震のことを言っている。インドネシアをはじめインド洋沿岸諸国に死者・行方不明者23万3000人〔2005年4月現在〕に上る犠牲者が出た。京都大学防災研究所年報第48号)

このスカラーパルス発生テクノロジーは時とともにどんどん洗練されてきている。

かなり以前のことだが、ヘッカート(Heckert)中佐はこう語った(注：元空軍中

佐 Donald Heckert、2023年6月12日、ワシントンDCの記者クラブで行ったディスクリージャーで証言した人物。グリアとは2022年に知り合った。かなりの高齢。ロッキード・スカンクワークスが開発した高高度飛行機に長年搭乗したり、オハイオ州のライトパターソン空軍基地の特殊プロジェクト長を務めたり、エリア51でフライトオペレーションを指揮したりした。記者クラブでの証言ではUFO目撃について語った)。

我々はさまざまな断層帯の上に非常に特殊な熱核装置を設置している。

— そのような熱核装置はロシアももっている。 —

我々は必要になったら、それを起爆し強い地震を起こせると彼は語る。

それ～、やっちなまえ！というわけだ。

これではどうていかなわぬ。

私と中佐が話していたのは、一方の軍事力が圧倒的なケース（非対称戦争）だった。

その装置が地震の引き金になる。

それらはカリフォルニアの西岸、その他の場所に設置された。

このようにいつ地震が起こるか分からないような不安定な場所、特に海溝に設置されたのだ。

その地震によって巨大な津波が生じる。

このように地震をテクノロジーで引き起こすことができるのである。

(注：ヘッカー中佐はさまざまな秘密のプロジェクトに関わった経歴がある。カリフォルニアの西岸に地震を起こせる熱核装置が設置されたことを知っているのは、少なくとも彼が違法集団側の情報にアクセスしたことがあるということだ。なおグリアは圧倒的武力をもっている違法集団を念頭において「非対称戦争」と表現したと思われる。)

さてこうしてくだんの人物は、はるばるアラスカから彼に与えられたミッションの詳細を私に伝えるためにやってきた。

なぜなら彼はやましさに苛まれていたからだ。

こんな結果になるとは思ってもみなかったからだ。

もちろんみなさんも作戦に参加したために25万人の無辜の人々を死なせてしまった罪悪感を想像できると思う。

広島に原爆を落として死なせてしまった人数に匹敵する（注：1945年8月6日に広島に投下された原爆によって同年末までに約14万人が亡くなった。広島原爆慰霊碑に納められている原爆被爆者名簿には2024年8月6日現在33万9227人の亡くなった被爆者の名前が記載されている。被爆関連死を含めた死者数は14万人を相当越えていると推測される）。

彼はこのことを私に伝えたかったのだ。

私はこう答えた：

そう、私はこのテクノロジーがあることを既に知っていたと。

しかし私はこの件を旅行で同じ船に乗っていたヘレラ氏に伝えたが、彼はこの大惨事が違法組織の作戦によって引き起こされたことを知らなかった。

これは大量殺人だった。違法組織が行った作戦であり、このような組織は第二のアドルフ・ヒトラーやメンゲレを生む。

この種の悪事は本当に厭わしい。

私のもとにはこのような証言者が定期的に現れる。

私は1990年代初めか半ばにテネシー州で、ある男性から話を聞いた。

この男性も匿名を希望し、e-mail や電話のやりとりは決してしなかった。

彼は海軍情報局(ONI:The Office of Naval Intelligence) に勤めていた。

彼はスカラールパルス兵器のことを私に話した。

ET 宇宙船撃墜可能なその兵器を彼は目撃していたのだ。

そのことで彼は心を病んでいた。他の証言者と同様に。

私は彼にシンプルな質問をぶつけてみた。なぜ君たちはそんなことをするのかと。

ごく簡単な話だと彼は言う。

この兵器はトルーマンやアイゼンハワーの時代から使われている。

どうしてやつらは許可もなしに我々の惑星にやってくるのだ？

なぜ我々に熱核兵器を廃棄しろと要求するのか？と。

私はこんな言い方はしたくないが、彼の主張は犬が自分のテリトリーに小便をするような考え方だ。

自分のテリトリーにマーキングをするわけだ。

そんな言い方を彼はした。

E Tたちが許可なしに我々の空域、地球近傍に入り込んだのだから、自分たちは彼らを殺す権利があるというのだ。

まずは攻撃する。侵入したわけはそのあとに聞けばいい。

簡単な話だ。複雑な話ではないと彼はいう。

攻撃の結果バラバラにならなければ、そのE T宇宙船のテクノロジーを研究するのだと。

このような考え方が基準になっている。これはまったくひどい考えというしかない。

地球にやってきたからお前たちを殺すというのだ。

これが実態だ。まさに固定観念に取り憑かれている。

私はこんなことになっているのかと思い知らされた。

実に心をひえびえとさせる話だ。

なぜならこんな行為は平和な星間コンタクトを目指して行っている我々のCE-5コンタクトの営為のすべてと真逆だからだ。

その1 おわり

その2